

## 「スコットランドの独立問題」

2014年09月23日

イギリスからの独立の賛否を問うスコットランドの住民投票は興味津々であった。結果は反対 55.25 %、賛成 44.65%で、独立は否決された。否決はイギリス国を守ろうとする民意であると見られている。イギリスの歴史は長く、スコットランドの独立問題は諸々の経緯があったのであろう。独立派は、スコットランドには北海油田があり、経済的には恵まれている、北欧型の高度な福祉国家を目指したのではないか。独立すると、イギリスは経済的に弱まり、国際社会での存在感が薄れるのではないかと言われていた。キャメロン首相は必死で、残留を訴えていた。政治的発言をしないエリザベス女王も「慎重に」と、暗に否決を促すような発言をしていた。住民投票は軍事が絡むのも、嫌悪な空気になるのもなく、街角で喧々諤々と議論し合う様子は清々しく見えた。16歳以上に投票権が与えられ、85%近い投票率で粛々と行われた。また、敗北宣言も「一つの国としてさらに進もう」と潔い。政治参加の機運が高く、民主主義の根強さを見せられた。スコットランドには大幅な自治権が認められ、これも嬉しいことではないか。イギリスに残留することによって、益を失ったと思う「独立派」もいるだろうが、イギリス政府も権力を削がれた。互いのマイナスを認め合って「良きこと」とすべきであろう。都合のいい権益だけを求めることを断念し、譲り合うことが大切ではないか。

イギリスの原子力潜水艦はスコットランドに母港があり、独立すると、新しい母港を他に作ることは国民が許さない。すると、核保有国から脱落し、国際的発言力は小さくなる。それなら、独立賛成もいいかなとも思った。戦争に明け暮れ、国境線を塗り替え続けたヨーロッパが一つになり、もう戦争はしないことを目指し、ヨーロッパ連合（EU）が実現した。世界の未来を見る思いで、多くの人々が賛意を表した。スコットランドが独立すると、EUに新たな亀裂が生まれるのではないかと、他人事ながら「否決」を期待した。

豊かな国、豊かな地方が他のための負担を負うことには相当な反対があるようで、EUもギクシャクしている。スペインのカタルーニャ自治州も、同じように独立を求めているが、経済的に弱いスペインはカタルーニャが独立すると、更に苦しい状況になるのではないか。自治を認めた連合を模索してほしいと思う。

中国は異民族の独立は断固として認めない方針を取っている。チベット、ウイグル族への支配は人権抑圧の中での軍事統治である。統治された民族の悲鳴は中国政府には全く聞こえないようだ。沖縄は、戦前、戦中、戦後と本土から構造的差別を受けてきた。今また、沖縄県知事選の前に、基地を辺野古に移転しようと工事を強行している。沖縄では「独立論」が止むことがない。経済的豊かさを満喫するための「独立」には首肯できかねるが、人権侵害を受けている民族の「独立」は支持したい。

今回のスコットランドの独立問題は住民投票で民意を問い、それに従うという民主主義のお手本を示した。日本では、原発、沖縄の基地、憲法問題などで、住民投票があっても当然と思うが、政府は認めようとしなない。小平市の計画道路に関して、珍しく住民投票が行われたが、投票率が50%に達しなかったという理由で開票されなかった。民意を問うことはせず、お上に従えとのしきたりがまかり通っているようだ。重要問題に関しては、住民投票を行い、国民も関心をもって関わり、民主主義の内実を深めていくべきである。